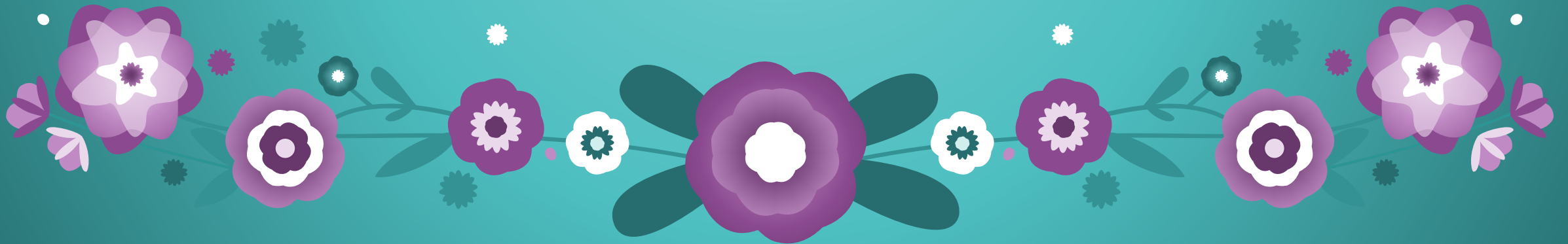


NPO法人  
女性エンパワーメントセンター福岡



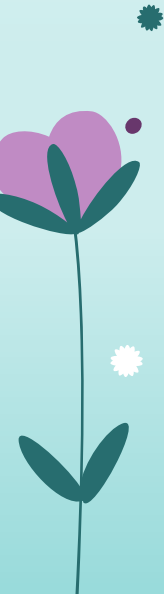
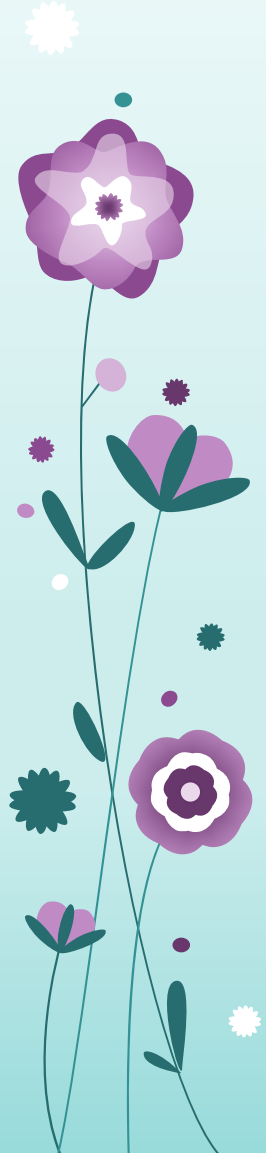
# 活動紹介

## 3つの柱

I. 女性への暴力防止と支援

II. 国際協力と平和の活動と移住女性自立の支援

III. 移住女性自立の支援



# I. 女性への暴力防止と支援

## ◆女性と子どものためのシェルター

...夫や家族からの暴力（DV）など様々な理由で、住居を失った女性と子どもたちのシェルター（一時避難所）を設けています。

関係機関と連携し、心身の健康と安全面、生活面、離婚など法律面から、自立を支援します。

## II. 国際協力と平和の活動と 移住女性の自立の支援（1）

◆フェアトレード（公平貿易）は、

搾取されやすい発展途上国の労働者に正当な賃金を支払い、その国の発展を手助けしようと言う団体です。私達は、その活動に協賛し海外の女性と子どもたちの手づくり品を展示販売、日本の移住女性の自立の手助けの資金にしてきました。

今期は、事務所の移転などの雑務に時間がとられ、広報、出品の品揃えを初めるのが遅れてしまいましたが、数人の方に御来店いただきました。



### III. 移住女性自立の支援(1)

#### ◆日本語教室サポート

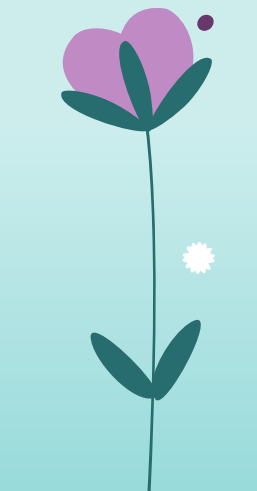
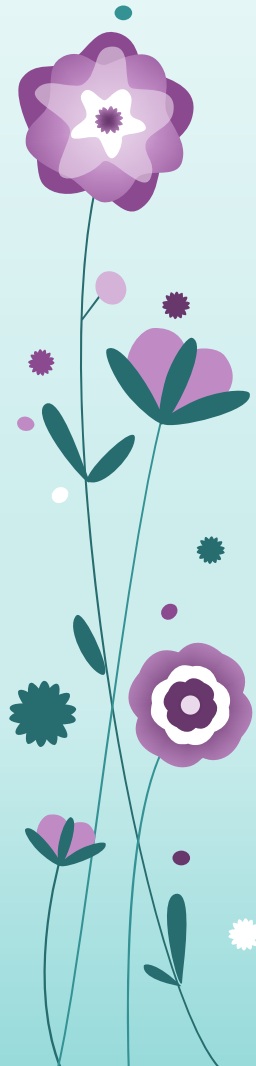
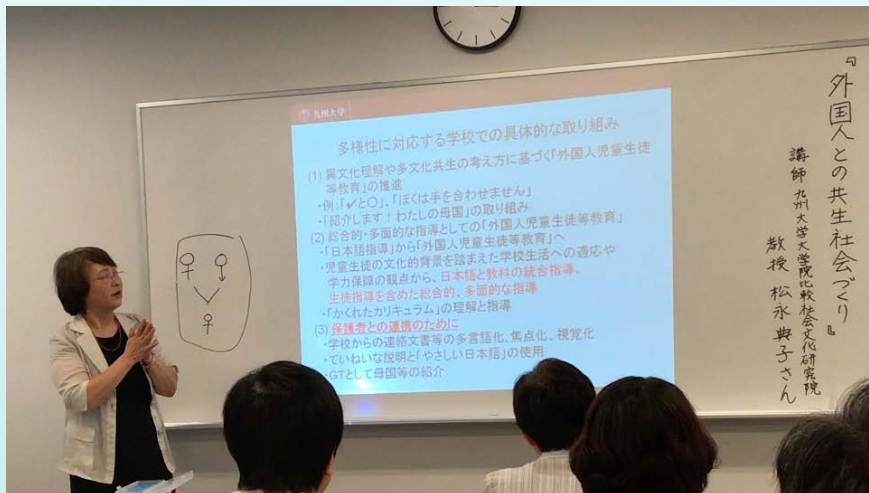
都市圏以外にも多くの移住女性が生活しているが、日本語教室は少ないため、  
農村地域での日本語教室開講 + 運営をサポートしています。

(朝倉・糸島・うきは・中間・田川  
直方・宗像・柳川・行橋・八女)





- 9月外国人との共生社会作りをテーマにセミナー
- 2月「第2回 ふくおか日本語教室連携会議」行う



## III. 移住女性自立の支援(2)

### ◆アジアの女性に学ぶ多言語教室

移住女性の自立支援として、グローバル化の貢献として、母国語を教えてもらっています。

言語：中国語、韓国語、英語、タイ語、インドネシア語、ロシア語、スペイン語

2019年4月には、12人いた受講生ですが、  
2020年3月には、7人となりました。  
天神と大野城の2つの運営が物理的に  
厳しくなり人気のあった外国語教室ですが  
今年、3月を持って、閉鎖とさせていただきます。



# 2019年度 福岡市移住女性の支援

## ◆2019年度福岡市NPO活動推進補助金事業

### ①多言語での電話相談実施 ②面接相談／通訳同行

2019年8月～2020年3月

今年度の多言語での常時電話相談は、英語／中国語のみに絞った為、全体のコール数は減っているが、丁寧な同行対面相談支援ができたと思う。

頼りになるはずの日本での義理の家族のサポートが受けられず、日本語がまだできず途方に暮れる中、私共の団体を見つけて連絡してきた女性に寄り添った対応ができたと思う。また、日本で育った我が子との会話ができず苦悩する親、他にもこのような人達がいるであろうからどのようにこのような人達にアプローチができるのかが課題になるであろう。



学校の手続きや赤ちゃん支援など以前あった通訳依頼は、今、3者通話での通訳で対応する団体が増え、そちらに数がながれている。福岡市以外から、3者通話でどのくらい理解してもらえているのか不安である為、同行依頼したいというのがあった。単に言葉の訳だけでなく、支援を求める方達が何を求めているのかをしっかりと伝えられる通訳の養成も必要になってくるのを感じた。実際、依頼が福岡県全般から来る為、再度、活動内容、活動方法の見直しが必要になっている事を感じている。

36件の電話/SNS相談

英語：34件

中国語：2件

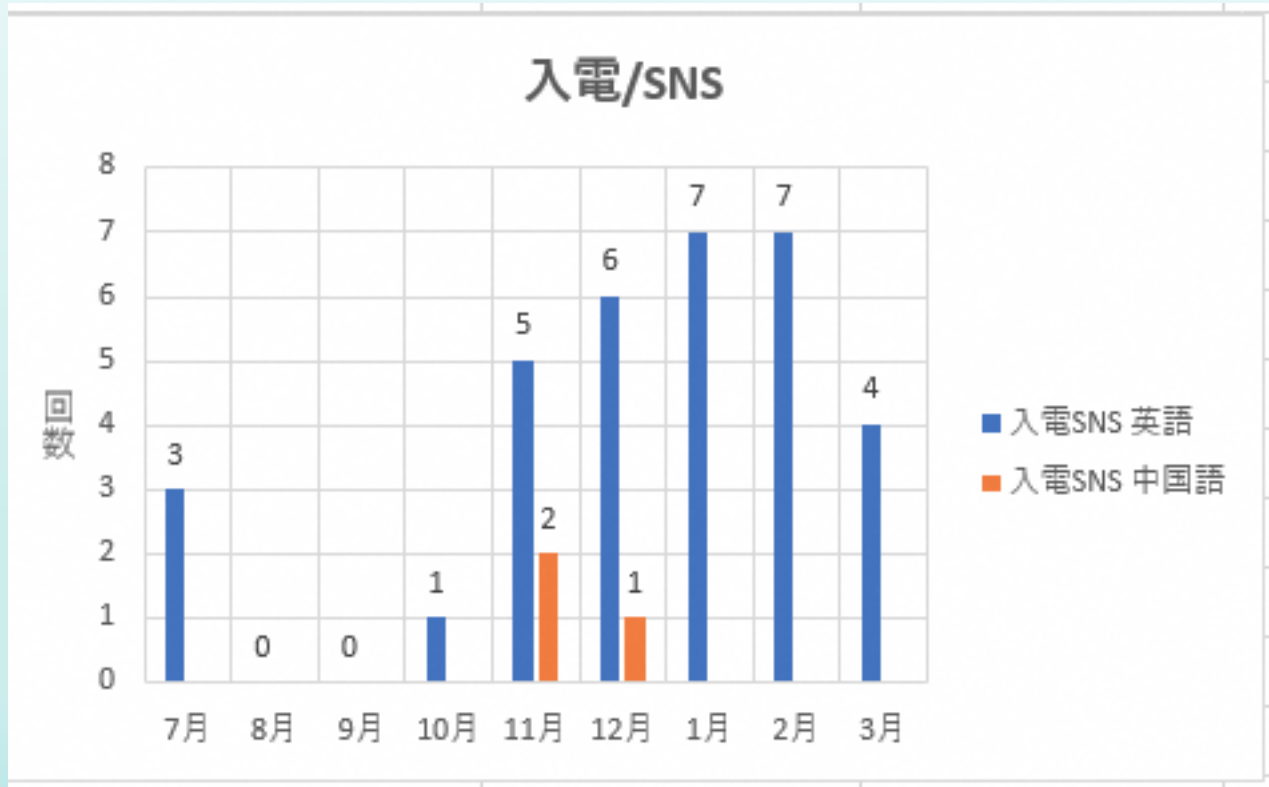
21件の面接相談／通訳

同行

英語：20件　タイ語：

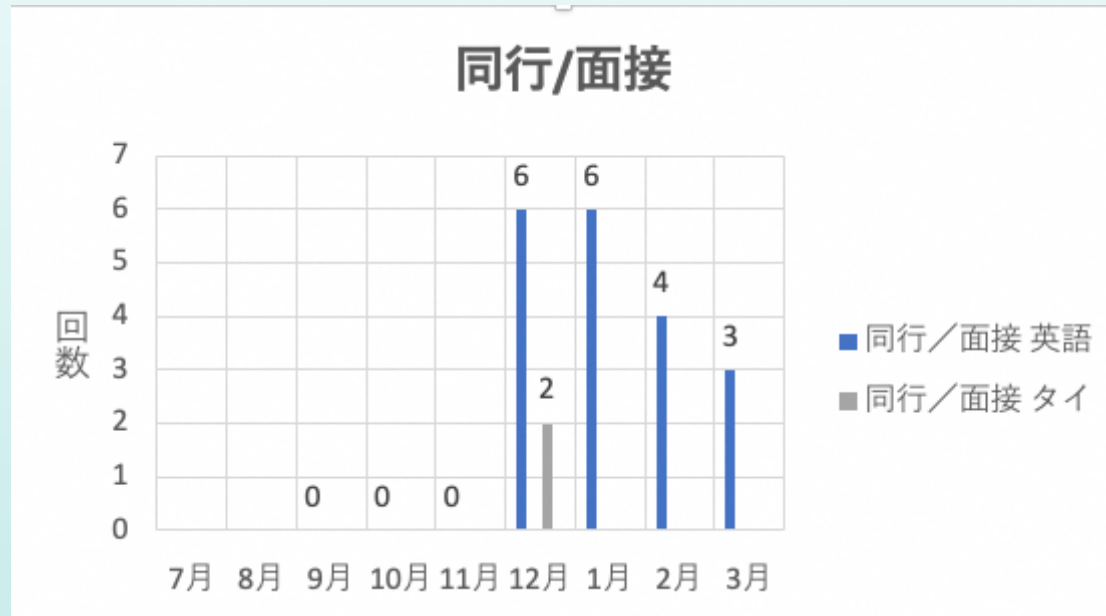
1件

# 電話での相談内容



電話での相談内容	
子供の教育	2
ベビーシッター	3
ピザ	13
ピザ以外の公的手続き	4
日本人の家族／職場に	2

# 同行／面接相談



同行/相談内容	
郵便局、銀行	5
入管	3
ハローワーク	1
シェルター	1
自動車教習所	1
ビザ面接	9
家族問題面接	1
合計	21

日本人家族と問題がある方は、日本語の問題を抱えている方であり、役所での手続きに助けが必要な方になります。また、会って話したい、電話だけだとわかってもらえない。会う事を望まれ、また、会ってしっかり聞く必要がある方になります。合計21の回数の中、半数が会ってお話をじっくりお聞きして解決策を模索した回数になります。

# 事業を通して

- 日本語が話せない移住者は増えてくる。日本語を話せる人だけを受け入れる事は、できなくなるだろう。日常生活に困らないように日本語を身につけてもらう支援は、続けられなければならない。
- 管理人の言葉がわからない、見知らぬ番号からかかってくる。0120で始まる番号。そんな質問にすぐに答えれる支援が必要。
- 異文化で暮らすのが故の悩みがある。そのような悩みを話せる電話が必要であり、異文化で暮らす人達の精神面の支援が必要である。
- シフトワークのように、働く時間が不規則の人は、電話をかけられる時間が限られており、仕事の合間に時間を'見つけて掛けてくるのだが、それを考えるといつでも電話に出られる体制が必要なのではないかと感じた。



2003年6月、天神に小さな事務所を借りて、女性エンパワーメントセンター福岡はスタートしました。

そして、16年。アジアや世界の女性とつながりながら活動を広げてきました。

従来の緊急支援（相談、通訳同行、シェルター）はもちろんのこと、女性たちの力を引き出し活かす共生循環(エンパワーメント)を大切にしながら、そして、女性の人権が尊重され、多様な人々が共に生きる地域と世界を目指して、一歩ずつ歩んでまいりました。

次期年度は、「特別非営利活動法人エンパワ福岡」と変更して活動を広げていきたいと思いません。

今後ともご支援ご協力よろしくお願い致します。

NPO女性エンパワーメントセンター福岡 スタッフ一同



**会員、絶賛募集中！**